

高齢者の活動促進のために地域が実施すべき イベントの在り方に関する研究

飯泉 海斗¹・山田 稔²

¹学生会員 茨城大学大学院 理工学研究科 (〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1)

E-mail: 21nm802g@vc.ibaraki.ac.jp

²正会員 茨城大学 工学部都市システム工学科 (〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1)

E-mail: minoru.yamada.civil@vc.ibaraki.ac.jp

従来から地域コミュニティによる高齢者に向けたイベント活動が行われてきており、外出機会の確保としての役割も担ってきた。しかし、担い手の減少や少子高齢化の影響から、地域が活動を継続的に実施するのは困難になっている。人口減少対策として広域を対象とし実施場所への交通を確保することで、サービスの質を保つという方向性が考えられる。広域を対象とした場合、地域に比べ、多様な内容で実施することが可能であるが、担い手が近隣の者という関係が薄れることが懸念される。そこで、本研究では各規模別実施主体の将来の必要な方向性を明らかにするため、小学校区と市全域での実施主体へのヒアリング調査の比較と、高齢者にアンケート調査を行い、各規模別の実施主体の現状や将来性について明らかにし、実施すべき具体的なイベント内容を提案した。

Key Words: *Leisure activities, Destination choice, Citizen Participation, Transportation for elderly people, Preventing from nursing care,*

1. はじめに

(1) 研究の背景

現在わが国では、高齢化が進んでおり、高齢者の健康寿命の延伸を図ることが課題となってくる。在宅高齢者の生きがいについて扱った蘇ら¹⁾は、社会参加が高齢者の生きがいを感じることにつながることを明らかにしており、地域高齢者の社会参加の現状について扱った長岡²⁾は高齢者の健康寿命の延伸のための社会参加の重要性について示している。

その中で、従来から地域コミュニティによる「健康体操」や「体験教室」といった高齢者に向けた活動が実施され、外出機会を確保し、介護が必要な状態を予防する役割も担ってきた。しかし、担い手の減少や、少子高齢化の影響から、地域が活動を継続的に実施することは容易ではなくなっている。一方で、一般には人口減少対策として、より広域を対象とし、同時にサービス提供場所への交通を確保することでサービスの質を保つといった方向性が考えられる。広域を対象とした場合、地域コミュニティが単体でサービスを提供する場合に比べ、多様な内容の活動を実施することが可能となることも期待される。また、特に近年では高齢者の情報機器活用のニー

ズなどにこれまでにないサービスの提供が期待されている面もある。一方で、広域が対象のサービスではサービスの担い手が近隣の者という関係が薄れる恐れがある。これらを踏まえての今後のありかたを明らかにする必要がある。

(2) 研究目的

そこで本研究では、従来からの地域コミュニティを対象とする活動と、市全域を対象とする活動の2種類についてその現状の特徴を比較するとともに、それらの特徴に対する高齢者に意識を明らかにし、各規模別に求められる実施内容の在り方を明らかにすることとした。

本研究では、地域コミュニティを対象とする活動と、市全域を対象とする活動の2種類について、それぞれの実施主体にヒアリング調査を実施し、調査結果を比較することで現状や将来性について明らかにする。また、実際の参加者となることが考えられる高齢者を対象に訪問アンケート調査を実施し、身体的な属性や個々人の志向の違いを把握しつつ高齢者が実施を求めているイベント活動について明らかにし、今後各規模別の実施主体で実施すべきイベント活動について提案する。

3. 研究対象

(1) はじめに

本研究では茨城県日立市における校区コミュニティによる高齢者向けの活動と、同じく同市全域を対象とした実施主体が行っている活動の双方を対象として、その役割分担等の将来のあり方を示すものである。

それぞれの主体の概要とその活動を文献 3)~5)に基づき、以下にまとめる。

(2) 学区コミュニティの活動

茨城県日立市は、図-1に示すように、小学校区を基本とした23の「学区コミュニティ」を有しており、市が所有し管理を委託している「交流センター」が一区所ずつ設置されていて、活動の拠点となっている。なお、うち2団体については対象が小学校区と一対一に対応していないため「地区コミュニティ」と呼ばれることもあるが以降ではこれらを総称して「学区コミュニティ」と呼ぶこととする。

市は、平成15年度より、介護保険の介護予防事業として「日立市社会福祉協議会」に「ふれあいサロン」という名称の業務を委託している。各学区コミュニティは社協の支部としてこの業務の実施の役割を担っており、原則として週に1回、カラオケや健康体操、お茶会などといった高齢者に向けたイベント活動が交流センターだけでなく数か所で実施されている。

これに加え、各学区コミュニティが独自に行う事業があり、一体的に展開されている。

(2) 市の生涯学習事業による高齢者の活動拠点

一方で、日立市(教育委員会生涯学習課)の事業として「ひたち生き生き百年塾」との名称で市全域の住民に向けて、趣味やサークル、英会話やそば打ちといった各種講座など半年~1年間程度継続するような様々なイベント活動を実施している。

ここでは参加者のみならず、ボランティアで教える立場の人を「市民教授」と呼び、こちらでも退職した人の活躍の場の確保としての役割も担っている。また近年では大学教員や行政職員、さらにはプロの講師を依頼するなどによって幅広い受講者のニーズに応えようとしている。

4. 調査の方法

(1) 実施主体へのヒアリング調査

地域コミュニティを対象とする活動と、市全域を対象とする活動の2種類について、それぞれの実施主体にヒアリング調査を実施した。

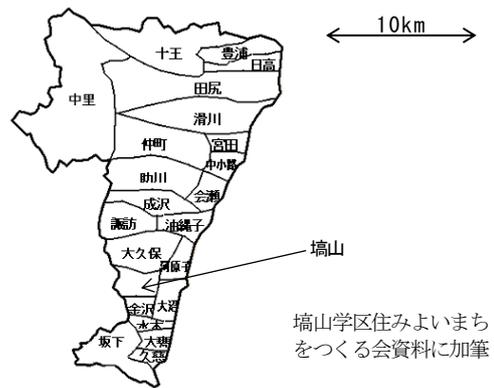


図-1 日立市の「学区コミュニティ」と塙山学区の位置

表-1 ヒアリング調査概要

調査日	令和2年11月6日	令和2年11月25日
担当者	塙山学区住みよいまちをつくる会 会長	ひたち生き生き百年塾 社会教育指導員 副本部長
調査場所	塙山交流センター	日立市教育プラザ

表-2 ヒアリング調査の具体的な質問内容

ヒアリング調査の際の質問内容	
現状	・ 具体的にどのような活動、支援を実施しているか ・ 実施主体として他の地域には負けない自信があると感じるようなイベント活動や支援の方法があるか
将来性	・ 今後も実施主体として工夫し、マンネリ化を防いで活動を継続し続けていけると考えているか
その他	・ これまでずっと人気が続いているイベント内容、減少傾向にあるものはどのようなものか、 ・ イベント活動の規模はそれぞれどのようなものか、

地域コミュニティを対象とする実施主体として、前述の「ふれあいサロン」を実施している日立市内の23の学区コミュニティのなかから、特に独自のイベントや定期的な自宅訪問等の多様な活動を連携して実施している塙山小学校区を対象とする「塙山住みよいまちをつくる会」をヒアリング対象に選んだ

また市全域を対象とした実施主体としては、前述の「ひたち生き生き百年塾」をヒアリング調査対象として選定した。

調査を表-1、表-2に示す。ヒアリング調査を行うにあたり、事前には、各実施主体の業務内容や組織の活動の経緯・歴史、またその中での高齢者向けの活動の内容などの情報を得ることができた。そこでヒアリング調査においては、各実施主体の現在の状況・課題や将来性について知ることを主要な目的とした。

これらの項目以外にも、これまでにそれぞれの実施主体が実施してきた具体的なイベント活動について、どのようなイベント活動が継続して人気があるか、逆に人気減少しているイベント活動はどのようなものかについてやそれぞれの実施主体のイベント活動の規模は具体的にどのような差があるのかについて調査を行った。

(2) 高齢者の参加意識についてのアンケート調査

サービス対象の圏域の異なる実施主体に対して今後の

あり方を提案するために、それぞれへの参加の潜在的な可能性がある高齢者を対象として、実施する具体的な組織については明示せず、開催場所までの距離や開催内容等の特徴に対する意識を明らかにすることとし、その結果からどのような実施主体で実施される活動への参加に適しているかを考察し提案につなげることにした。

平成 24 年 1 月と令和 3 年 1 月の 2 時点において、ほぼ同様の内容で同様の対象地域で実施した結果を用い、この間の意識の変化についても確認することとした。それぞれのアンケート調査の概要を表-3、表-4に示す。

調査場所に関しては、ヒアリングの対象とした埴山小学校区では学区コミュニティによる活動が突出して活発なため、より市全体の平均的な状況に近いと考えられる状況にある地域を選んだ。

質問項目として属性に関しては、年齢、性別、居住形態、生活実態、外出頻度、交流関係、イベント参加状況、体力レベル等について質問した。交流関係に関しては、現在住んでいる学区内、学区外の友人についてこれから増やしたいと思うかについて「今よりも増やしたい」「どちらかと言えば増やしたい」「今くらいで満足している」「必要ない」の 4 段階の選択肢を設けた。体力レベルに関しての質問は表-5に示す。5 つの質問項目に出来るかどうかを「はい」「いいえ」で答えるのとした。

高齢者がイベント参加の際にどのような特徴を求めているかを知る質問を作成するにあたり、先に実施した実施主体へのヒアリング調査で得られた情報に基づき、表-6に示すように「新しい交流を求める」「参加者との人間関係が良好であること」「交通手段が確保できる」「健康・体力にあっている」「具体的なイベント内容への嗜好」といった 5 項目でイベントを特徴づけることができるものと整理した。そして、この 5 つの特徴の項目についてどの程度重要視しているかを知るための質問を行った。

また、調査の 2 時点の間での急速な高齢化や情報技術の著しい発展に伴って高齢者のニーズが変化している可能性が考えられたため、令和 3 年の調査ではこの部分に関する質問を追加した。これについては 6 章で説明する。

5. ヒアリング調査結果

ヒアリング調査対象の実施主体の特徴は表-7のとおりであり、ヒアリングの結果については表-8、表-9のとおりである。

両者に共通する結果として「ずっと人気が続くようなイベントの提案は非常に難しい」という意見が得られた。

また異なる点として、埴山学区ではイベントだけでなく、高齢者に対する支援や手助けをも力を入れているこ

表-3 平成 24 年の訪問アンケート調査概要

実施日	平成 24 年 1 月 9 日～1 月 16 日		
調査方法	訪問配布・訪問回収		
対象者	50 歳以上の男女		
調査項目	回答者の属性と希望するイベントの特徴		
調査場所	諏訪 1 丁目	西成沢 4 丁目	田尻 1 丁目
配布数	60 部	60 部	60 部
回収数	55 部	60 部	53 部

表-4 令和 3 年の訪問アンケート調査概要

実施日	令和 3 年 1 月 7 日～1 月 13 日		
調査方法	訪問配布・訪問回収		
対象者	50 歳以上の男女		
調査項目	回答者の属性と希望するイベントの特徴		
調査場所	諏訪 1 丁目	西成沢 4 丁目	田尻 1 丁目
配布数	82 部	84 部	76 部
回収数	73 部	79 部	68 部

表-5 体力レベルに関する 5 つの質問項目

体力レベルの 5 つの質問項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「100m を休まずに歩くことができるか」 ・「1 人で近所のスーパーに行き帰ってこられるか」 ・「ラジオ体操などの健康体操ができるか」 ・「ゲートボールなどの軽いスポーツができるか」 ・「山登りやテニスなどの運動ができるか」

表-6 本研究で扱うイベントの特徴の 5 項目について

イベントの特徴の項目	ヒアリング調査から具体的に得られた高齢者がイベント参加の際に考慮する点
新しい交流	新しい参加者が交流しやすいような環境かどうか、参加した際に友達を増やしたいか
人間関係	参加した際に自分と仲がよくない参加者がいないかどうか
交通手段	開催場所と家の距離、会場までの交通手段
健康・体力	イベントに参加する際に必要な体力レベル、どのような運動を求めているか
イベント内容	自分が参加したいと思うイベント内容かどうか、

表-7 ヒアリング調査対象の特徴比較

	埴山学区住みよいまちをつくる会	ひたち生き生き百年塾
交通手段	足腰の悪い方や交通弱者のために相乗りタクシーを運営している	マイカーでの参加者がほとんど
参加者	埴山学区の範囲内	日立市全域
スタッフ	交流センターの職員、近隣住民のボランティア、民生委員	推進委員、プロの講師等を呼んで講座を開く
資金	毎週 1 回のふれあいサロンを通所型サービス事業とし日立市が社会福祉協議会に委託	日立市教育委員会生涯学習課として支援
イベントの実施内容	ふれあいサロン、温泉ツアー、詐欺被害防止教室、お茶会、交通安全、グラウンドゴルフ	ピラティス・ヨガパソコン教室英会話、そば打ち

とで、全体として高齢者にとっての役割を担っていること、「ひたち生き生き百年塾」は参加者がより楽しめるようなイベントの魅力的な提案に力を入れていることの違いが明らかになった。この違いは対象地域の違いに基づく本質的なものと考えられ、それぞれの強みを活かし、イベント内容や役割を分担していくことが基本的に有用であると考えられる。

このほか個別のイベント内容についての留意点や課題等の情報も得られたが、これについては本研究での提案

に関連する部分について7章で紹介することとする。

6. アンケート調査結果

(1) イベントの特徴の5項目について

すでに説明したように、表-6 に示した「新しい交流」「人間関係」「交通手段」「健康・体力」「イベント内容」の5項目の特徴に対しての意識データがアンケート調査から明らかにした。

まず、それぞれの項目について関連している具体的な例を選択肢として示し、5項目それぞれの中で、どの選択肢が最重要と考えるかを聞いた結果について示す。

図-2 に「新しい交流」に関して6つの選択肢を示したものの結果を示す。2時点での調査結果にはほとんど違いが見られていない。しかし、④「様々な人と知り合いになれる規模の大きいイベントに参加したい」を最も重要だと選択している割合は3%と小さく平成24年の調査からも大きく減少している。したがって、共通の趣味を持つ人が少人数集まるものや、今の友人と気軽に参加しやすいようなものが相対的に重要性が高まってきていると考えられる。

図-3 に「人間関係」に関しての4 選択肢の質問結果を示す。平成24年の調査に比べ令和3年の調査では④「終了後のつきあいをしなくて済むのが良い」を最も重要だと選択している回答者が増えている。積極的な人間関係を求められず、活動時間中やそれ以外の時間に個人でも楽しめるような内容へとニーズが変化してきていると考えられる。

図-4 に「交通手段」に関する6 選択肢の結果を示す。介護予防が期待される高齢者ということもあり、長い移動を伴わない①「開催場所が自宅から歩いて近いのが良い」が多いと想定していたが、実際には2時点のいずれにおいても④「開催場所に十分な駐車場が用意されていると良い」が最も多い結果となった。平成24年に比べて令和3年はやや増加して46%と約半分を占める割合となっている。

ここから、多くの高齢者はイベント会場がある程度遠くても、自家用車でのアクセスを考える人が多いことがわかるが、一方で他の手段によらざるを得ない人のニーズが潜在化しないような配慮が必要と考えられる。

図-5 に「健康・体力」に関する5 選択肢の結果を示す。平成24年の調査では①～④の4 選択肢であったが、令和3年の調査では実施主体ヒアリングで外で行うスポーツの人気の高いとの情報があり、⑤を追加した。

平成24年の調査も令和3年の調査も①「自分の体力レベルに合った体力的に疲れることのないイベントを望む」と③「軽い運動（健康体操など）で、日頃の運動不足の解消が出来るものを望む」といった選択肢を最も重

表-8 塙山学区住みよいまちをつくる会のヒアリング結果

塙山学区住みよいまちをつくる会	
現状	・ イベントだけでなく、塙山学区に住む高齢者に向けた支援に力を入れて頑張っている。 ・ イベント活動の名称を変更したり、新しい要素を必ず加えるといった実施する側として工夫をしている。
将来性	・ 補助金を主に人件費に多く費やしており、スタッフやボランティアに対する意識が高いため、将来も継続していけると考える。
その他	・ 市全域よりも比較的小さめの規模のイベント（健康体操や茶話会など）を行っている

表-9 ひたち生き生き百年塾のヒアリング結果

ひたち生き生き百年塾	
現状	・ 新しい形のイベントの実施や、参加者がより楽しめるようにすることに力を入れて頑張っている。
将来性	・ プロの講師を呼んで講座を実施しており、参加者も多く、資金がある限り将来も継続していけると考える。
その他	・ 小学校区よりも大きめの規模のイベントや具体的な活動内容が幅広く、実施主体が新しい発想を持ちながらイベントを実施している。

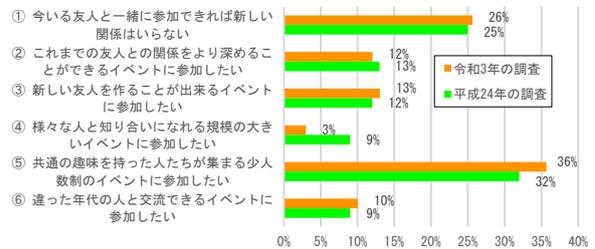


図-2 「新しい交流」において最も重要だと考えるもの

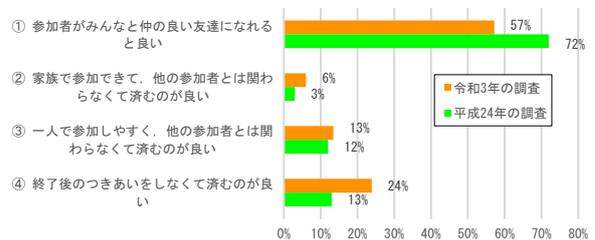


図-3 「人間関係」において最も重要だと考えるもの

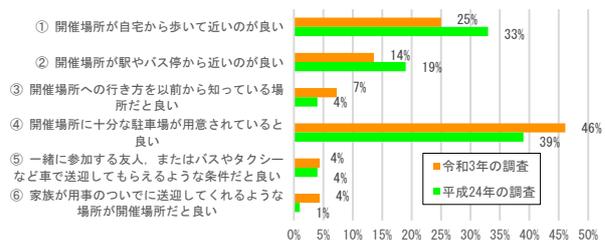


図-4 「交通手段」において最も重要だと考えるもの

要だと考えている高齢者が多い結果となった。また令和3年の調査で新しく加えた⑤「外で楽しく行えるスポーツ（グラウンドゴルフやソフトボール）を望む」が11%であり、その分、①や③が減っていることから平成24年と比べ今の高齢者は、軽いスポーツだけでなく、グラウンドゴルフや、ベースボールなど激しめのスポーツも含めニーズが大きくなってきていると考えられる。

また、③「軽い運動（健康体操など）で日頃の運動不足の解消が出来るものを望む」と⑤「外で楽しく行えるスポーツ（グラウンドゴルフやソフトボール）を望む」を合計すると、45%となり、約半分の高齢者が体を動かす健康体操や、グラウンドゴルフ等のスポーツのイベントを求めていることがわかった。

イベントの特徴の5項目の「イベント内容」に関する質問は、高齢者が具体的にどのようなイベント活動に参加したいと考えているかをより明らかにするために、令和3年の調査にのみ、表-10 に示す選択肢のなかから、重視するものをすべて選択してもらった複数回答形式とした。なお、⑥「現在、用意されているイベント内容で十分であり、現状維持してもらうことが重要だ」を選択した解答者に関しては、他の回答を選択しないよう設定した。

図-6 に結果を示す。ここから、現在のイベント内容で十分だと感じる高齢者は約2割と少なく、スマホ、パソコン教室を求めている高齢者が約5割、詐欺防止教室を求めている高齢者が約3割いることから、情報機器を活用した暮らし方や、詐欺防止教室による安全な暮らし方といったイベント活動の参加によって新しい暮らし方を提案することを求めている高齢者は多いことが推測できる。

(2) 5つのイベントの特徴の順位づけについて

本研究では、アンケート調査で分類した5つのイベントの特徴の項目である「新しい交流」「人間関係」「交通手段」「健康・体力」「イベント内容」について、イベントに参加する際に重視することを5つの特徴の項目でより重要だと思う順に番号（順位）をつけてもらった。表-11 に実際のアンケートの質問文を示す。

図-7 に表-11 に示した質問の結果を示す。ここから5つの特徴の項目の中で、イベント内容を1位に選択している回答者が一番多いことがわかる。また、高い順位である1位と2位をそれぞれの項目で合計すると、新しい交流は13%、人間関係は30%、交通手段は32%、健康・体力は64%、イベント内容は63%となっており、非常に多くの高齢者はイベントに参加する際に、健康・体力とイベント内容を重視していることがわかる。

この質問から交通手段とイベント内容に着目し、交通手段をイベント内容よりも高い順位にした回答者と逆にイベント内容を交通手段よりも高い順位に選択している回答者について、新たに集計しなおした結果を表-12 に示す。ここから、交通手段をイベント内容よりも高い順位に回答した割合が26%、イベント内容を交通手段よりも高い順位にした割合が65%となっている。また、平成24年の調査においても交通手段をイベント内容よりも高い順位に回答した割合が26%、イベント内容を交通手

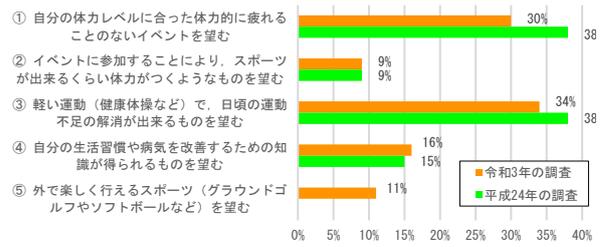


図-5 「健康・体力」において最も重要だと考えるもの

表-10 「イベント内容」に関する実際の質問方法

問. どのような内容のイベント内容に参加したいと思いますか？
 次の①～⑤の中から、重視するもの**全て（複数可）**を選んで番号に丸をつけてください。
 しかし⑥を選んだ場合、その他の選択肢を選ばないでください。

- 「カジノや健康麻雀など実際に参加して競い合いながら楽しめることが重要だ。」
- 「詐欺防止講座や交通安全など、これからの生活が安全に暮らせるようになるものが重要だ。」
- 「スマホ教室やパソコン教室などの講座を受けて、離れた家族や友人とコミュニケーションをとれるようになったり、新しい趣味を見つけることが出来るようになるのが重要だ。」
- 「免許返納啓発イベントなど、免許返納に関する市の支援や援助を聞き、実際に返納の方法を教えてもらい、返納して自分が起こす事故などの危険性をなくすことが重要だ。」
- 「ボランティアなどで自分が社会に貢献していることを実感できることが重要だ。」
- 「現在、用意されているイベント内容で十分であり、現状維持してもらうことが重要だ。」

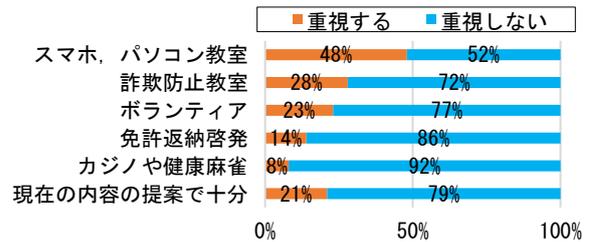


図-6 「イベント内容」において重視するもの

表-11 5つの特徴に関する順位づけの質問文

問. あなたがイベントに参加する際に重視することは「新しい交流」「人間関係」「交通手段」「健康・体力」「イベント内容」の中でどれですか？**重要だと思う順に番号をつけてください。**

「新しい交流」----- () 位
 「人間関係」----- () 位
 「交通手段」----- () 位
 「健康・体力」----- () 位
 「イベント内容」----- () 位

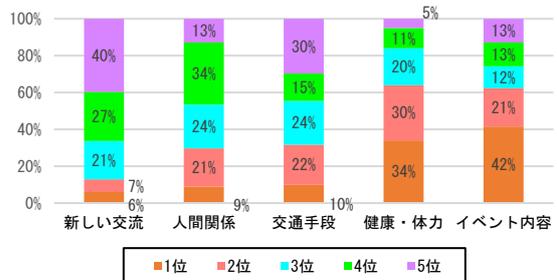


図-7 令和3年調査の5つの特徴に関する順位づけの結果

段よりも高い順位にした割合が63%、無回答11%となっ

ており、多くの回答者が交通手段よりもイベント内容を重視している結果が得られた。このことから、高齢者は交通の便が悪くても魅力的なイベント内容が実施されていたら、参加したいと考えていることが推測できる。

(3) 今後の交流関係と新しい交流の重要度の関係

本研究のアンケート調査において、回答者の属性を調査するために行った今後の交流関係について、現在住んでいる学区内、学区外でそれぞれ友人をこれから増やしたいと思うかについて「今よりも増やしたい」「どちらかと言えば増やしたい」「今くらいで満足している」「必要ない」といった4つの選択肢から選択してもらった結果と、表-11の質問にて調査した新しい交流の順位づけについてクロス分析を行った。また、順位づけに関しては、1位と2位に選択したものをまとめて「重要視している」3位に選択したものを「あまり重要視していない」4位と5位に選択したものを「重要視していない」とそれぞれまとめて分析を行った。図-8に今後、学区内で友人を増やしたいかに関する質問と新しい順位の順位づけのクロス分析の結果を示し、図-9に今後、学区外で友人を増やしたいかに関する質問と新しい順位の順位づけのクロス分析の結果を示す。

図-8より、新しい交流の順位を1位か2位に選択している回答者は、学区内で友達を増やしたいと回答している割合が約4割となっており、逆に必要ないと選択している回答者は、1割以下であることがわかる。また、新しい交流の順位を4位か5位に選択している回答者は、1位か2位に選択している回答者とは異なり、学区外で友達を増やしたいと選択している回答者が1割以下になっており、必要ないと選択している回答者が約3割となっている。χ²検定より、有意確率 0.043 となり、今後学区内で友達を増やしたいかに関する質問と新しい交流の順位づけの質問には有意差があるといえる結果となった。

次に、図-9においても、図-8の時と同様に新しい交流の順位を1位か2位に選択している回答者は、学区外で友達を増やしたいと回答している割合が約4割、必要ないと選択している回答者は約2割である。また、新しい交流の順位を4位か5位に選択している回答者は1位か2位に選択している回答者とは異なり、学区外で友達を増やしたいと選択している回答者が1割以下になっており、必要ないと選択している回答者が約3割となっている。χ²検定より、有意確率 0.001 となり、学区内同様に、今後学区内で友達を増やしたいかに関する質問と新しい交流の順位づけの質問にも有意差があるといえる結果となった。

このことから、高齢者は学区内、学区外どちらにおいても地域で新しい友達を増やしたい高齢者はイベント活動に参加する際に、新しい交流に関して重要視する傾向

表-12 令和3年調査の交通手段とイベント内容の優先度の差

	交通手段の順位が イベント内容よりも上	イベント内容の順位 が交通手段よりも上	無回答
回答者	58	142	20
割合	26%	65%	9%

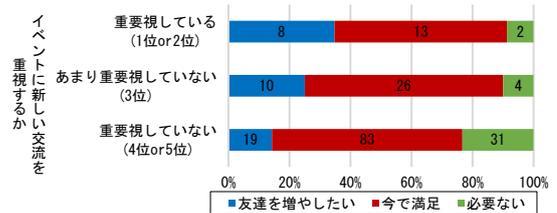


図-8 学区内の今後の友人関係と新しい交流の順位

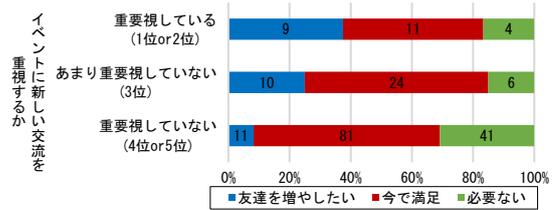


図-9 学区外の今後の友人関係と新しい交流の順位

があり、新しい友達はまだ必要ない、今で十分と感じている高齢者は新しい交流を重要視しない傾向にあることがわかった。

(4) 体力レベルと健康・体力に重視する選択肢の関係

本研究のアンケート調査では、回答者の体力レベルを判別できるように、表-6にも示した「100m 休まずに歩くことができるか」「1人で近所のスーパーに行くことができるか」「ラジオ体操などの健康体操ができるか」「ゲートボールなどの軽いスポーツができるか」「山登りやテニスなどの運動ができるか」といった体力レベルに関する5つの質問に回答してもらった。この5つの質問に関しては、先に述べた質問から軽い運動のものになっており、質問が進むにつれ激しい運動ができるかどうかの質問になるように作成している。

5つの質問の中で、本研究の体力レベルの調査で一番激しい運動の質問となる「山登りやテニスなどの運動ができるか」についての結果が、「はい」「いいえ」それぞれ回答者の割合が約半数ずつになったことと、他の4つの質問項目に関して、はいと答えた回答者が大多数であったため、本研究では、「山登りやテニスなどの運動ができるか」の質問に関してははいと答えた高齢者を「体力レベルが高い高齢者」、いいえと答えた高齢者を「体力レベルが高くない高齢者」と分類して分析を行った。分類した2つの高齢者の属性と図-5に示した健康・体力のイベントの特徴で最も重要視する選択肢を選んでもらった回答をクロス分析した結果を図-10に示す。

図-10から、体力レベルが高くない高齢者は、健康・体力に関して最も重要視する選択肢として、「自分の体

力レベルに合った体力的に疲れることのないイベントを望む」や「軽い運動（健康体操など）で日頃の運動不足の解消ができるものを望む」といった選択肢を選ぶ回答者が多く、「外で行えるスポーツ（グラウンドゴルフやゲートボールなど）を望む」といった激しめのスポーツを選択する回答者が非常に少なかった。しかし、体力レベルが高い高齢者はこの選択肢を選んでいる回答者が 2 割以上であり体力レベルの違いで選ぶ選択肢の割合に大きな差が生じている。また、 χ^2 検定より、有意確率 0.000 となり、本研究で分けた高齢者の 2 つの体力レベルと健康・体力に関して最も重要視する選択肢の質問に関しては、有意差があるといえる結果となった。

体力レベルが高くない高齢者も軽い運動を 4 割の人が求めており、体力レベルが高い高齢者は軽い運動と激しめのスポーツの割合を合計すると、約半数近くになることから、どちらの体力レベルの高齢者もスポーツ系のイベントを求めている人が多いことがわかり、実施主体としてはそれぞれの体力レベルにあった軽い運動に加え、激しめのスポーツを実施していくことが、高齢者の活動促進に効果的だと考えられる。

(5) まとめ

本研究では、訪問アンケート調査の結果と分析から、高齢者に向けたイベント活動の実施主体が認識すべきである高齢者とイベント活動に関する 4 つの仮説をおいた。本研究でおいた 4 つの仮説を表-13 に示す。

一つ目の仮説である①「高齢者の参加意欲は、高齢者に向けて開催されるイベント内容に大きく関連してくる」に関しては、本研究の調査にて、「新しい交流」「人間関係」「交通手段」「健康・体力」「イベント内容」のイベントの特徴についてイベントに参加する際により重要だと思う順に番号（順位）をつけてもらった図-7 の結果より、イベント内容を 1 位に選択した高齢者が 5 つの特徴の中で一番多いことから多くの高齢者がイベントに参加する際にイベント内容を重要視していることがわかったため、この仮説をおいた。

二つ目の仮説である②「高齢者は交通の便が悪くても、興味のあるイベントには積極的に参加したいと感じる」に関しては、①の仮説同様に、図-7 のイベントの特徴の順位づけの質問結果から、交通手段とイベント内容に着目し、交通手段をイベント内容よりも高い順位にした回答者と逆にイベント内容を交通手段よりも高い順位に選択している回答者をそれぞれまとめた結果をそれぞれ示した表-12 より、交通手段をイベント内容よりも高い順位に回答した割合が 26%、イベント内容を交通手段よりも高い順位にした割合が 65% となっており、多くの回答者が交通手段よりもイベント内容を重視している結果が得られたことから、高齢者は交通の便が悪くても魅力

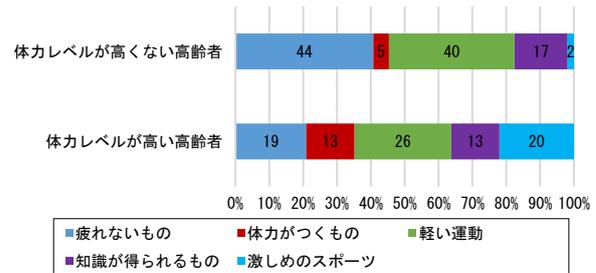


図-10 体力レベルと健康・体力で重視する選択肢

表-13 実施主体が認識すべき 4 つの仮説

本研究で置く実施主体が認識すべき 4 つの仮説	
①	「高齢者の参加意欲は、高齢者に向けて開催されるイベント内容に大きく関連してくる」
②	「高齢者は交通の便が悪くても、興味のあるイベントには積極的に参加したいと感じる」
③	「高齢者のイベント参加は、地域内で人間関係を深めたいと考えているかどうかに影響される」
④	「高齢者は新しい暮らし方を提案するようなイベントを求めている」

的なイベント内容が実施されていた場合、参加したいと考えていることが推測できるため、この仮説をおいた。

三つ目の仮説である③「高齢者のイベント参加は、地域内で人間関係を深めたいと考えているかどうかに影響される」に関しては、学区内、学区外で友達を増やしたいと考えているかどうかに対する質問と「新しい交流」の順位に関してそれぞれクロス分析を行った図-8 と図-9 より、高齢者は地域で新しい友達を増やしたい高齢者はイベント活動に参加する際に、新しい交流に関して重要視する傾向があり、新しい友達はまだ必要ないと感じている高齢者は新しい交流を重要視していない傾向にあることがわかったため、この仮説をおいた。

四つ目の仮説である④「高齢者は新しい暮らし方を提案するようなイベントを求めている」に関しては、表-10 に示した「イベント内容」に関してどのようなイベントに参加したいと思うか当てはまるもの全てを選択してもらった複数回答可能な形式で行った質問とその結果を示している図-6 から、スマホ、パソコン教室を求めている高齢者が約 5 割、詐欺防止教室を求めている高齢者が約 3 割いることから、情報機器を活用した暮らし方や、詐欺防止教室による安全な暮らし方といったイベント活動の参加によって新しい暮らし方を提案することを求めている高齢者は多いことが推測できるため、この仮説をおいた。

7. 地域が実施すべき具体的なイベント内容

(1) 分析に関わる属性のイベント内容について

6. (3)での高齢者がイベント活動に今後求める友人関

係や交流関係の分析結果に基づけば、今後の友人関係や交流関係については、友達を増やしたい高齢者も3割近くいる中で、今で満足している、もう必要ないと考える高齢者も多いことから、実施主体としては、交流を伴うイベント、伴わないイベントのどちらも実施していくことが重要だと考えられる。

また 6.(4)で、体力レベルに関しても体力レベルが高い高齢者は激しいスポーツや軽い運動を求めることが多く、体力レベルが高くない高齢者は疲れないものや軽い運動を求めることが多いことがわかったため、各体力レベルに合ったイベントを様々に実施することが重要であると考えられる。

そこで、本研究では、交流を伴うイベント、伴わないイベントとそれぞれの体力レベルに関して適したイベントを実施主体へのヒアリング調査の際に聞いた人気のあるイベントや過去に行っていたイベントから抜粋して提案する。提案内容を表-14に示す。

交流をあまり伴わないイベントとしては、人と関わりがなくても個人で参加できるものとして、体力レベルが低い高齢者にはこれからの生活の健康に関する講座や有識者の講演会、普通の体力レベルの高齢者にはガーデニングやDIY、高い体力レベルの高齢者にはマラソンやジオハイキングを提案した。

友達を増やしたいと考えるような高齢者に適した交流を伴うイベントとしては、他の参加者と多くのコミュニケーションをとりながら楽しむものとして、体力レベルが低い高齢者には参加した際に体をあまり動かさなくてもよいボードゲームやスマホ教室、普通の体力レベルの高齢者にはボランティアやヨガ、高い体力レベルの高齢者にはグラウンドゴルフやベースボールなどの激しめのスポーツのイベントを提案した。

(2) 各規模別の実施主体で実施すべきイベント内容

学区コミュニティの範囲を対象とした実施主体と、市全域の範囲を対象とした実施主体それぞれに適しているイベント活動の内容を提案を表-15に示す。

学区コミュニティを対象とした実施主体が実施すべきだと考えられるイベント活動については、ヒアリング調査において実施主体の職員や地域住民のボランティアなどで実施可能とわかったもののなかで健康体操やお菓子作り、健康麻雀などが有効と考えられる。また、「埴山学区住みよいまちをつくる会」が近年実施を始めた詐欺防止教室は、本研究の調査でも実施してほしいと回答する高齢者が多かったことから、日頃から地域住民と密接に関わっているような実施主体が実施することが高齢者のより安全な暮らし方に対して効果的であると考えられる。

市全域を対象とした実施主体が実施すべきだと考えら

表-14 分析に関わる属性の高齢者に効果的なイベント内容

	交流をあまり伴わないもの	交流を伴うもの
体力レベルが低くても良い	健康に関する講座、有識者の講演会	ボードゲーム、スマホ教室
普通の体力レベルが必要	ガーデニング、DIY	ボランティア、ヨガ
高い体力レベルが必要	マラソン、ジオハイキング	グラウンドゴルフ、ソフトボール

表-15 各規模別の実施主体で実施すべきイベント内容

	小学校区	市全域
スポーツ系	健康体操、筋トレ、健康に関する講座、グラウンドゴルフ	ジオハイキング、マラソン、ソフトボール、ヨガ、ピラティス
学習系	有識者の講演会、詐欺防止教室	スマホ、パソコン教室、大学講師などの授業
体験系	ボランティア、パン作り教室、手作りお菓子教室	DIY 企画、楽器体験、そば打ち教室
趣味系	映画鑑賞会、健康麻雀、家庭菜園、ボードゲーム	コンサート、歴史探索、物産展、バザー

れるイベント活動については、小学校区を対象とした実施主体よりも大きな規模で、専門の講師などと呼んで行う形のイベント内容である。スポーツ系も実際に会場を用意して、大人数で楽しめたり、競いあったりすることができるイベントの実施が効果的だと考えられる。

スマホ、パソコン教室に関しては半分の高齢者が実施を望んでいるが、学区コミュニティのヒアリングでは専門の講師などと呼んで実施する必要があると考えており、市全域を対象とした実施主体が実施することが効果的であると考えられる。

8. 結論

本研究で得られた成果は以下のとおりである。

- ① 各規模別実施主体へのヒアリング調査から、それぞれの実施主体の現状や将来性を明らかにした。
- ② 高齢者に対する訪問アンケート調査から、高齢者の属性ごとにどのようなイベント活動を求めているか明らかにした。
- ③ 高齢者に対する訪問アンケート調査結果から、実施主体が認識すべきである高齢者とイベント活動に関する4つの仮説をおいた。
- ④ 各規模別の実施主体の将来の必要な方向性として実施主体がそれぞれ実施すべき具体的なイベント内容に関して提案した。

参考文献

- 1) 蘇珍伊, 林曉淵, 安壽山, 岡田進一, 白澤政和: 大都市に居住している在宅高齢者の生きがい感に関連する要因, 厚生指標 51:13, 1-6, 2004.
- 2) 長岡雅美: 地域高齢者の社会参加の現状, Leisure&Recreation (自由時間研究) 32巻1号, 2008.

- 3) 日立市コミュニティ推進協議会：<https://hitachicommunity.sakura.ne.jp/community.html>, 2021.
- 4) 日立市高齢福祉課:日立市における新しい総合事業の取り組み状況, <https://www.murc.jp/sp/1509/houkatsu/seminar/2015/151106/pdf/06hitachi.pdf>, 2015.
- 5) ひたち生き生き百年塾推進本部: 百年塾の理念, http://iki100j.heteml.jp/honbu/100njhp/honbu/hjkaisetu/index_hjrinen.html, 2018.

RESEARCH ON THE ACTIVITIES HELD BY LOCAL COMMUNITIES TO
PROMOTE THE INCLUSION OF ELDERLY PEOPLE

Kaito IIZUMI and Minoru YAMADA